

【パターン】

農業生産活動 鳥獣被害 電気柵等対策実施
農業生産活動

成功例

対策の効果が出た場合で、被害がなくなるか、ごくわずかになった場合。
電気柵、緩衝帯整備、地域でのしっかりした管理ができた地域。
地形や鳥獣の種類によっては、電気柵だけで効果が出ている場合もあった。
ただ、やはり設置後の管理がしっかりできないと、電気柵だけでは効果の
継続が難しいと思われた。



伊那市非持山地区

電気柵では不十分なことから
H17~18 で防護柵
導入し、ほぼ全体
を囲む



高山村水中地区

水田のサル、イノ
シシ対策として区
民総出で直営施行
で設置(H17,18)。
草刈り、見回り等
実施。



南牧村野辺山原

シカ対策に一連の野菜畑を防護柵で囲む。
被害はなくなるが景観的には課題。
7地区で設置。



生坂村下生坂

整備水田の上段に荒廃していた農地90aに最初に牛、現在はサフォークを入れた結果、シカ、イノシシ被害がなくなった。(H16～)



南木曾町大妻籠地区

H17から町で独自で忠犬制度を導入。2年間で12頭を登録。この農家は2頭登録。周辺農家の畑も回る。サルには効果あり。イノシシは課題。



南木曾町

町の集中的な対策の実施により広範囲に電気柵を設置し、水田をイノシシ等から守っている。



富士見町

地域一帯に電気柵を設置し水田等を守っている。(電気柵の設置以前に侵入したシカの駆除が課題)



須坂市米子

農業用水路に小型の水車を設けて落差1.2mにより発電し、鳥獣害対策の電気柵の電源としている全国初の取組。